

博 士 論 文 要 旨

題 目 糖尿病熟練看護師の判断プロセスの可視化に基づく

糖尿病患者の疾病受容を支援するアセスメントツール試案の作成

指導教授 佐々木 順子 教授

入学年月 平成 19 年 4 月 入(進) 学

学籍番号 0707603

氏 名 彦 聖美

要旨

【目的】本研究は、糖尿病患者の「疾病受容」に注目し、糖尿病熟練看護師の判断プロセスを可視化し、それに基づいて糖尿病患者の疾病受容を支援するアセスメントツール試案を作成することである。

【方法】本研究は Step1 から Step4 段階で計画して実施した。Step1 では、文献検討よりアセスメントにおける判断プロセス構造の把握と、看護師が強化すべきアセスメント要素を抽出した。Step2 では、糖尿病熟練看護師 19 名に対するフォーカス・グループ・インタビューを実施し、糖尿病熟練看護師の優れた看護実践ケアと判断プロセスの把握を行った。Step3 では、Step1 と Step2 の結果を基に、糖尿病患者の疾病受容を支援するアセスメントツール試案を作成した。Step4 では、作成した糖尿病患者の疾病受容を支援するアセスメントツール試案を、病院で糖尿病看護に携わる看護師に一度使用してもらい、その評価を得た。

【結果】Step1 の文献検討の結果、看護師のアセスメントにおける判断プロセスは、第一段階「情報収集」、第二段階「分析・統合・判断」という 2 段階構造を持つ過程と考えられた。また、看護師の強化すべきアセスメント要素は、「予測される患者パターンから推論を持つ」と「看護師が自分の推論を患者に確認する」の 2 つであった。Step2 のフォーカス・グループ・インタビューの結果、糖尿病熟練看護師のケアとして 8 カテゴリーが抽出された。さらに、糖尿病熟練看護師の捉える「糖尿病患者に予測されるパターン」としては、5 つのカテゴリーが抽出された。それは、①揺れ動く感情の存在がある、②現状・予後の理解不足がある、③誤った理解・無関心の可能性がある、④性・年齢別特徴がある、⑤行動変容に影響する個別の特性を持つ、であった。そしてそのパターンを察知するために、糖尿病熟練看護師はいくつかの注目すべきアセスメント項目を持っていた。Step3 で

作成したアセスメントツールは、「対象把握シート」、「情報の統合・患者と看護師の考えのズレ確認・看護介入の方向性シート」で構成した。Step4 では、29 名の糖尿病看護に携わる看護師より評価を得た。その結果、「心理状態のアセスメント」、「患者の状態の予測」、「患者の強みをケアに活かす」に対して肯定的評価を得た。一方、「わかりやすさ」「使いやすさ」「効率性」に関しては、必ずしも肯定的な評価が得られなかった。

【考察】本研究において、看護師達から語られた実践ケア内容には、多くの経験から得られたアセスメントにおける技能が見いだされた。また、本研究の過程で、糖尿病熟練看護師は多くの経験から、糖尿病患者に予測されるパターンによる推論を持ち、それらを確認しながらケアにつなげているという判断プロセスが明らかとなった。

アセスメントツールの実用化にはまだ多くの課題を残すが、本研究のごとく、糖尿病熟練看護師の優れた判断プロセスを可視化して活用することは、看護実践から汲み出された「経験」を「根拠」と結び付け、糖尿病看護の質向上につながる可能性を持つといえた。